



まなびかんニュース パソコン道場

まなパソコン道場

第42回

紙面記載の画面は
Windows7+Office2013
操作環境によっては表示
が異なる場合があります

茶帯級

縦横の交差する値を取得

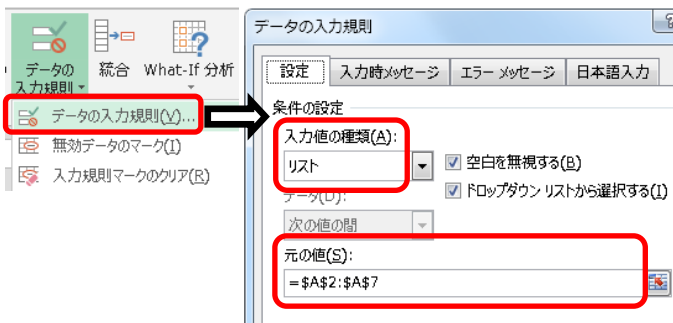
INDEX関数 MATCH関数

	A	B	C	D	E	F
1	料金表	1時間まで	2時間まで	3時間まで	4時間まで	5時間まで
2	大人一般	500	1,000	1,300	1,700	2,000
3	大人会員	0	300	550	750	950
4	子ども一般	150	300	450	600	750
5	子ども会員	0	100	300	400	500
6	60歳以上一般	100	500	500	750	1,000
7	60歳以上会員	0	100	200	300	400
8						
9	ピンター・会員選択		時間選択		料金	
10	大人一般		1時間まで	→	500	
11			1時間まで			

左図のExcelの表を使って、リストから「大人一般」の行の値と「1時間まで」の列の値を選択すると、交差した値(=料金500)が表示されるようにしたい。

- ①A1:F7の範囲に料金表がある
 - ②A10にはA2:A7の値をドロップダウンで選択できる設定をする
 - ③C10はB1:F1の時間をドロップダウンで選択できる設定をする
- ②③の2箇所を選択するとE10の料金が自動で参照されるようになるわけじゃ！応用がきくので、しっかり理解するんじゃぞ！！

- 1 ドロップダウンの設定は、セルA10を選択しリボンメニューの[データ]→[データの入力規則]をクリック。



上図のように[設定]タブ→[リスト]→元の値の枠内を選択し表のA2:A7をドラッグ(\$マークが自動でつく)→OK。

セルC10には、同じ手順で表のB1:F1を設定して→OK。
これでA10は「大人一般～60歳以上会員」、C10は「1時間まで～5時間まで」が選択できるようになった。

- 2 最後に料金を表示するセルE10を選択し以下を入力。

=INDEX(B2:F7,MATCH(A10,A2:A7,0),MATCH(C10,B1:F1,0))

INDEX関数・・・書式は =INDEX(参照, 行番号, 列番号)

MATCH関数・・・書式は =MATCH(検査値, 検査の範囲, 照合の種類)

INDEX関数の部分を解説すると、
[参照]はB2:F7の金額がある部分。 ※A1:F7ではない！

[行番号]はMATCH関数で「A10で選択したのと同じなのはA2:A7の範囲で何番目？」ということで上記例の場合だと1が返る。同じく

[列番号]もMATCH関数で「C10で選択したのと同じなのはB1:F1の範囲で何番目？」で1が返る。

それぞれ[照合の種類]は0を指定すると「完全一致」をさす。

結果、上記の式は =INDEX(B2:F7,1,1)と同じ意味となり、選択した行と列が交差する値[=500]が表示される。さあ、ドロップダウンの値を変えてみよう！連動して料金に変化していくぞ！

白帯級

初級レベル

茶帯級

中級レベル

黒帯級

上級レベル